

文 山根 久子(NPO法人神於山保全くらぶ)
写真 西川 幸彦(同上)

神於山(296.4m)は、岸和田市の山手を走る国道170号線沿いの道の駅「愛彩ランド」の山側にあります。昔から<神が於わす山>として崇められ、地元の人々が里山として利用していました。しかし、燃料革命後の神於山の荒廃はひどく、2001年、ボランティア団体(NPO法人神於山保全くらぶ)の里山保全活動(竹の伐採・ネザサを刈る・植林など)が始まりました。

現在は多くの人たちが安心して山歩きを楽しんでいます。2013年からの植物調査では、希少種や暖地性植物のカギカズラ、ヤナギイチゴなど約600種が確認されました。動物はムササビ、ノウサギ、カヤネズミなどの哺乳類、アオゲラ、フクロウなどを含む鳥類、タゴガエルなどの両生類、オオムラサキなどの昆虫類ほか、生物の種類は多く、自然豊かな里山として大事に守っていききたい山です。周辺は数年前から開発が進み、2022年からは大規模商業施設の建設工事が始まっています。台風による倒木や多量のブナ科の大木がナラ枯れて枯死したため、神於山は一変しました。今後どうなっていくか周辺を含め、注目です。



ササユリ



ヤナギイチゴ

文・写真 田中 正視(男里川干潟を守る会)

男里川河口干潟は「日本の重要湿地500」(環境省2001年)に選定され、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」として、特徴を次のように紹介しています。《男里川河口周辺の海域。当該海域は河口干潟であり、規模は小さいが、塩生植物が豊富で底生動物も大阪湾ではここで見られない種が数多く生息している。》

私は、この河口のすぐ近くで生まれ育ちました。おじいちゃんに手を引かれ、素足で遊んだ砂浜には本当にたくさんの「カニさんたち」が大きなハサミを振っていました。この時に教わった名前が「たいそう(体操)ガニ」。70年以上も前のお話です。「水、めっちゃきれいや!」「あかん!早すぎる!捕まえられへん!」…子どもたちは、遊び学びます。格闘していた魚は「アユ」です。男里川河口付近や干潟の観察会、「ハゼ釣り」「カニ釣り」「海水から塩を作って塩おにぎりを食べよう」…豊かな自然環境は現在も残り、楽しい時間が流れます。

でも、やっぱり昔の自然環境とは明らかに変わってしまったことが多々あります。「豊かで元気な自然を取り戻したいなあ!!」と、おじいちゃんになった私は思っています。



男里川河口干潟で観察会



「ハクセンシオマネキ」雄の争い?